

COVID-19の文脈における宗教指導者と信仰に基づくコミュニティのための実践的な考察と提言 (中間ガイダンス)

1、背景

宗教指導者・組織・共同体は、いのちを救い、COVID-19（以下、日本で用いられている新型コロナウイルスに改める）に関する病気を減少させるための重要な役割を担うことができます。かれら宗教指導者とその団体は、豊かな社会の実現へ貢献する主要な存在です。かれらは、門信徒やあらゆる人々を守るために心身を豊かにする情報を共有できますし、むしろ他機関の情報より受け入れられやすい可能性があります。また、公衆衛生上の緊急事態やその他の健康上の問題が発生した際、こころのサポートを提供したり、社会的弱者（要介護者や障がい者）を擁護したりすることができます。

宗教機関は、新型コロナウイルスを予防するための科学的根拠に基づいた正しいステップを共有することで、社会へ有益な情報を促進し、不安や差別・偏見などを予防・軽減し、人々に安心感を与え、健康を守るための実践を促進することができます。

宗教指導者は、日々の法務とその慈悲のつながりを通じて地域社会に溶け込み、最も弱い立場の人たちを見極め、手を差し伸べることができます。また、あらゆるコミュニティのあいだで、弱い立場にある人々のセーフティネットとして、重要な架け橋となっています。

2、ガイダンスの目的

本文書は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、宗教指導者・組織・共同体に向けて、新型コロナウイルスについての知識・準備・対応についての具体的な取り組みを、WHOの指導に基づき、以下の通り知らせるものです。

- 新型コロナウイルスの知識・準備・対応について、科学的根拠に基づいた情報を共有する。

- 大人数での集まりを避け、必要に応じて可能な限り、オンライン上での法務や宗教活動を行う。
- 法要、講座、親睦会といった集会を開催する決定は、国や地方自治体の指針に沿ったものであり、かつ健全なリスク評価に基づいている。
- 法要・法務などの宗教行事を開催する場合、その安全性を確保する。
- 適切な物理的距離感を保った個人的な接触、および社会の多様なコミュニケーションメディアを通じて、ウェルビーイング、レジリエンスといったところのケアを強化する。
- 活動内容およびその趣旨が、人権擁護の取り組みとして体系的に支持されている。
- ステイグマ（差別や偏見など）、暴力、憎しみの扇動といった問題に対処する。
- 新型コロナウイルス感染拡大時、超宗派・異宗教間の協力と平和的共存を促進する。
- 正確な情報をコミュニティと共有し、誤った情報には適切に対処する。

3、安全な集会（許可されている場合）

新型コロナウイルスに関する主要な情報源は、国や地域の保健当局です。この保健当局は、人の移動の制限、集会開催の許可、許可された場合の集会規模などの情報を提供します。集会を開催する場合、当局が発表したガイダンスに従い、中規模以上の集会になる場合は、主催者は当局と連絡をこまめに取りする必要があります。当局より集会が許可されている場合、宗教指導者やその団体は、新型コロナウイルスの脅威を軽減するために、下記に挙げる措置をとるようにしてください。これらの措置が取れないならば、物理的な集会は中止しましょう。開催の決定がなされた後は、実施にあたる対策や工夫を、書面あるいは図面など目に見える形で入口に提示すると良いです。

オンライン集会を実施できない場合は、参加者間の接触を制限するために、集会の時間を最小限に抑えてください。

人と人との間には、常時最低1メートルの距離を保つようにしましょう。

新型コロナウイルスは、感染者がくしゃみ・咳・会話をすると、呼吸器の飛沫を介して感染します。これらの飛沫は人に付着したり、近くにいる人が吸い込んだりすることがあります。宗教機関や組織は、門信徒との間に安全な距離を維持し保護しなければなりません。

（「物理的距離の確保」）

- 不要な物理的集会は控え、ライブストリーミング、テレビ、ラジオ、ソーシャルメディアなどを通じたオンライン集会を企画する。
- 物理的集会を開催する場合、屋外での開催を検討する。屋外開催が困難な場合、屋内の会場にて十分な換気を確保する。
- 常時安全な距離を保つため、出席する人、退出する人、参拝スペースに入る人の数と動

線を調節する。

- 人数の多い会よりも、人数の少ない会の方が良い。大規模な会を単発で開催するよりは、小規模の会を複数回に分けて開催するよう検討する。
- 巡礼地での巡礼者数とその動線は、物理的距離を尊重して管理する。
- 参拝者の席や立ち位置は、最低1メートル離す。必要に応じて、安全な距離が保たれる固定席を設け、割り当てる。
- 病人や症状が出始める人に備えて、隔離できる部屋や場所を特定しておく。

参拝者同士の触れ合いを防ぎましょう

信仰上、参拝者同士が身体的に接触することがよくあります。新型コロナウイルスを含んだ呼吸器の飛沫は、人の手に付着し、身体的接触によって他の人に移ります。参拝やその他信仰上の作法における参加者間の接触を防ぐために、参拝内容をどのように適応させるか検討する必要があります。

新型コロナウイルス感染のリスクを減らすために、新しい挨拶の作法を作りましょう。すでに採用されている挨拶に、次のようなものがあります。

- ハグ・キス・握手にかわって、お辞儀やピースサインにする。あるいは物理的な距離を保ちながら手話で挨拶をする。
- 堂内入口では、握手などの身体的な接触ではなく、親しみやすい言葉と笑顔で挨拶をする。

また、礼拝中の参拝者の多くは、握手やハグによって「平和のしるし」を共有します。これらについては、例えば以下のようなものに代替されつつあります。

- 互いに「the peace (平和を)」と言いながら視線を合わせ、お辞儀をする。
- 互いに安全な距離を保ったまま、みなが同じように、口頭で、またはお辞儀をしながら、ともに「平和のしるし」をお供えすること。
- そのほか文化的・宗教的に認められ、物理的な接触を避けた新しいかたち

宗教的道具や供物に触れたりキスをしたりすることを防ぎましょう

信仰上、礼拝中に信仰の対象となるものに触れたり、キスをしたりすることがよくあります。新型コロナウイルスは、物の表面に何時間も何日も留まることがあります。信仰対象となるものの表面に触れたりキスをしたりする習慣を避け、門信徒を感染から守る必要があります。指導者は、門信徒の理解が得られる安全な参拝方法を新たに創らねばなりません。中には、以下のような方法を門信徒に奨励しているところもあります。

- 宗教的象徴に触れるのではなく、一礼をする。
- 1メートル以上離れた場所から祝福を受け、聖餅を舌の上に置いたり、コップで飲むよ

うな聖餐式は避ける。

- 宗教儀式用の食べ物は、共同の聖餐用器物に入れるのではなく、個別に包装されたものをできるだけ使用する。
- 人々が共用のボウルに指を浸すことを防ぐために、聖水盤は空にする。
- 足を洗うなどの触れ合いを伴う儀式を排除し、適切な儀式に代える。
- 参拝者には、礼拝所に出席する前に、自宅で儀式的な洗礼を行うように奨励する。

参加者が健康的な衛生状態を保つように奨励しましょう

- 礼拝の前後に門信徒用の手洗い場を設けたり、参拝者が裸足で入る場所には足洗い場を設けたり、入口と礼拝堂にアルコール系のハンドラブ（アルコール度数 70%以上）を置いたりして、参拝者が健康的な衛生習慣を維持できるようにする。
- 使い捨ての顔拭き用シートを手の届くところに置き、使用済みを入れる箱は閉じておく。
- 毎日の祈りのために、礼拝者には祈り用の敷物を持参させ、カーペットの上に敷いてもらうようお願いする。
- 新型コロナウイルスの症状がある場合や、新型コロナウイルスが蔓延している地域に最近旅行したことがある場合は、礼拝に参加しないよう勧める。
- 参加者が裸足で礼拝堂や会所に入るときは、履物は個別に袋に入れておく。
- 身体的な距離、手の衛生、呼吸エチケットに関するアドバイスを視覚的に表示する。

礼拝堂、会所、建物を頻繁に清掃しましょう

- 消毒剤を使った定期的な清掃をすることで、礼拝堂、巡礼地、その他人々が集まる建物の表面からウイルスを除去する。この作業は、集会の直前と直後の清掃を含む。
- ドアノブ、照明スイッチ、階段の手すりなど、頻繁に触れるものを消毒剤でこまめに清掃する。

4、オンライン宗教活動の開催（必要な限り）

ほとんどの宗教指導者・組織・共同体は、新型コロナウイルス感染拡大で、しばらくの間、参拝やその他の集会を中止する決断を下すことになると思われます。多くの国では、大規模な集会はすでに禁止、自粛されています。宗教指導者は、これらの推奨事項を強化することが地域の模範であることを忘れてはなりません。そして同時に、オンラインの宗教活動によってコミュニティのつながりを維持させることも重要な地域の模範であることを覚えておくべきです。以下の提案は、すでに多くの宗教指導者が、技術的な手段を用いて門信徒とのつながりを維持し、また門信徒同士のつながりを維持するためにも利用しています。オンライン技術が使用されている場合、宗教指導者は、特に社会的弱者（子ども、要介護者、障が

い者など)を配慮し、ネット上のセキュリティーを伝えるべきです。

コミュニティを維持し、参拝を継続するためにテクノロジーを利用しましょう

宗教行事をオンラインで利用するため、どのような技術方法で利用できるかを検討してください。他の組織と提携してオンライン・チャンネルを活用することを検討しましょう。例えば、以下のようなことが考えられます。

- 礼拝や儀式をビデオや音声で録画し、ソーシャルメディアで放送したり、投稿したりする。
- 電話あるいはソーシャルメディアやビデオチャットのプラットフォームを利用して、個別の訪問やケア訪問を行う。
- 会議や小グループでの対話型の法事のため、オンライン会議のプラットフォームや電話会議の施設を使用する。
- テレビやラジオのチャンネルの利用を拡大する。

宗教活動を維持するために、ローテクノロジーを利用しましょう。

すべての宗教団体が、先進的な技術を活用できるわけではありません。それでも、以下のような取り組みを通して、コミュニティとのつながりを継続することができます。

- 信者で電話をかけて、ペアの祈りをしたり、電話の「チャット」サービスを利用したりする。
- 信者が物理的に離れていても、毎日または週に一度、同じ時間に遠隔で宗教的なお勤め(祈り、特定の儀礼など)を観察できる時間帯を伝える。
- 祈りやその他の宗教的行為を個人や家庭で行うことを奨励する。
- 信者からの法務に関する要請をまとめて回覧し、全信者が支援できるようにする。

5、安全なセレモニー

新型コロナウイルス感染拡大の期間中、礼拝堂での厳粛な法要や祝典は変更してください。

- 地域の保健当局によって集会が許可されている場合、宗教指導者は、本文書の「安全な集会」のセクションで概説されている「物理的距離」に関する指針、および当局が設定した参加人数などの制限に従うことによって、結婚式や葬儀などの儀式を行うことができる。
- 国または地域のガイドラインに沿って物理的な集会が開催できない場合でも、主要な出席者のみに限定し、他の参加者はライブストリーミングやビデオ技術などの遠隔で介せば、可能な場合がある。
- 保健当局が対面での葬儀・儀礼を制限するガイダンスを発表した場合、親族や友人が不在で葬儀を執り行うことができる。

6、安全な埋葬の実践

たとえ新型コロナウイルス感染拡大の真っ只中であっても、宗教指導者は、悲しむ遺族が大切な故人を偲び適切な葬儀・納骨の儀式を執り行えるよう努めることができます。こうした葬儀や参拝を安全に計画し実行する方法を知っておくことで、施主を感染の危険から守り、安心させ、くわえて故人への敬意を示すことができます。

1. 新型コロナウイルスで死亡した人の遺骨は、教義的に問題ない場合、エンバーミング・埋葬・火葬が許可されるべきである。
 2. 宗教指導者・団体は、遺族と協力して、適切な法事の次第および感染を防ぐ埋葬や葬儀の手順について考える。例えば、以下のようなことが挙げられる。
- 遺体の洗浄や白布をかけることが作法の一部である場合、施主を感染から保護するために部分的な変更が必要となる。
 - 最低限、これらの作法（遺体の洗浄や白布をかけること）を行う人は、使い捨ての手袋を着用すること。
 - 体液が飛び散る可能性がある場合は、儀式に参加する人に追加の個人用の保護器具（使い捨てガウン、フェイスシールド、ゴーグル、医療用マスクなど）が必要になることがある。
 - 医療施設から遺体を搬出した後、遺族がその遺体を拝観することを希望する場合、現地の物理的な距離制限に従って、遺体に触れたりキスをしたりせず、拝観の前後に手洗いを徹底することを条件に、拝観を許可することができる。
 - 埋葬・葬儀の変更が採用される場合、子どもや高齢の参列者の安全に特に注意を払う必要がある。

7、メンタルヘルスとレジリエンスの強化

宗教指導者・組織・共同体は、年齢層、職業、地域を超えて人々の間に関係を築き、つながりを作るという比類のない役割を果たしています。さらに、宗教指導者は、宗教者という専門的な役割を通じ、他団体と連携していることが多いです。その結果、かれら宗教指導者やその組織は、物理的距離を保っている間に居場所を失うかもしれない人々とのつながりを強化できる特有の立場にあります。このような苦しい時期に関係を構築することは、門信徒のこころの健康を強化し、より大きなコミュニティの回復力に貢献することができます。宗教指導者はまた、教団の理念や教義に沿った実践によって、門信徒コミュニティが新型コロナウイルスの環境下に対応していくことを助けます。いのり・読経、感動的な法話・朗読、安全な奉仕活動などは、自信を築き平穏な社会を生み出します。以下は、その助けとなるステップです。

地域社会とのつながりを保つ

宗教指導者やその団体組織は、定期的に、できれば電話で門信徒ひとりひとりの様子を確認することで、信頼され、自宅待機に努めることができます。これは、一人暮らしの可能性のある人、高齢者、障がい者、そのほか立場の弱い人などを考えていくことが特に重要です。組織は、共同体の連絡先リストを最新のものにして、門信徒がアクセスできるようにすることもできます。組織は、個々の門信徒がボランティアで連絡網（コーリング・ツリー）を作成し、門信徒の健康状態を確認するために、定期的に他の門信徒数人に電話をかけるようにすることができます。直接の訪問は可能な限り避けるべきであり、必要であれば、適切な物理的な距離感やその他の予防策を採用すべきです。さらに、宗教指導者は、家族間の分離が起こらないよう努め、子どもたちが家族から離れている状況では、家族を基盤としたサポートの充実を促進することが奨励されています。

他者への支援

援助を必要としている人を助けることは、援助を与える側だけでなく、援助を受ける側にも利益をもたらします。宗教団体は、個々の優先度に応じて、門信徒が他の人を助ける方法を特定することができます（高齢者、障がい者、近隣の社会的立場の弱い人を電話で確認したり、食料品の配達を申し出たりするなど）。宗教指導者やその団体は、生活に支障をきたしている人や、自分自身および家族を養うことができない人々のために、資源の共有を促進することができます。特に重要なのは、医療従事者、法執行官、必要不可欠なサービスに従事する労働者が、家族から離れて仕事を続けている場合のケアです。宗教指導者は、経済的に余裕のある人々に、感染拡大の影響を受けた人々のために寄付をするように促すことができます。門信徒が協力して活動することで、連帯感が生まれ、回復力を高めることができます。

心配なニュースの猛攻に対処するために門信徒を支援する

宗教指導者は、孤独、恐怖、不確実性の時代の中で、ストレスを管理し、希望を持ち続けるための措置をとるように地域社会に奨励することができます。新型コロナウイルスに関する絶え間ないニュース報道は、誰もが不安を感じる原因となります。宗教指導者は、一日に数回、定期的に、選択した時間帯にウイルスに関する情報を求め、信頼できる情報源を門信徒に紹介するように地域社会の人々に奨励することができます。また、それぞれの信仰の伝統に基づいた聖教や導きを読み、希望を持ち続けることができるようになります。

家庭内暴力の状況への対応

移動制限が行われている環境では、特に女性、子ども、その他の疎外された人々に対するドメスティック・バイオレンスが増加する可能性があります。年齢、宗教、移住の状況、セ

クシャリティ、民族性に関連した既存の脆弱性が悪化する可能性があります。宗教指導者は、暴力に対して積極的に発言することができ、支援を提供したり、被害者が助けを求めることを奨励したりすることができます。子どもが懸念される場合、宗教指導者は、何を、誰に、どのように報告すべきかを含めて、子どもの保護と保護に関する方針を知っておくべきです。

病人のために特別な祈りや、安心と希望のメッセージを捧げる

宗教指導者は、適切な祈り、神学的・聖典的な考え、希望のメッセージを共同体に提供することができます。内省、祈り、家族との時間などの重要性を示すことができます。

8、新型コロナウイルス教育における宗教指導者の役割

宗教指導者、組織、共同体は、私たちの共同体の中で最も信頼されている情報源の一つであり、また、心理、健康、社会的ケアにおいても同様です。門信徒は、新型コロナウイルスに関するガイダンスが、政府や保健当局から提供されるよりも、信仰指導者からの方が信頼し従う可能性があります。信仰を基盤とする組織の保健医療や社会サービスは、特に農村地域や社会的に疎外された人々の間では、より利用しやすいものであることが多いです。信仰指導者はまた、誤った情報、誤解を招く教え、噂など、急速に広まり、大きな被害をもたらす可能性のあるものに対抗し、対処する特別な責任を負っています。法話やメッセージは、それぞれの信仰の伝統の教義/教えや実践に沿ったものであるとともに、WHO や国や地方の公衆衛生当局から提供された事実に基づいたものでなければなりません。

伝えるべきこと

正確な情報は恐怖心やスティグマ(偏見、差別)を減らすことができます。宗教指導者は、門信徒にわかりやすい平易な言葉でガイダンスすることができます。WHO のガイダンスは、信頼できるプラットフォームで複製され、共有されています。宗教指導者はまた、地域や国の保健当局のウェブサイトやその他の情報チャンネルを利用して、地域のガイダンスを利用することを意識すべきです。

宗教指導者や信仰に基づくコミュニティが門信徒に伝えることができる最も重要な保護情報には、以下のようなものがあります。

- 目、鼻、口に触れないようにする。手は多くの表面に触れ、ウイルスを拾う可能性がある。一度汚染されると、手がウイルスを目、鼻、口に移すことがある。そこからウイルスが体内に入り、病気になる可能性がある。
- 呼吸器の衛生管理を徹底する。ウイルスは呼吸器の飛沫を介して感染する。呼吸器の衛生を守ることで、インフルエンザや新型コロナウイルスなどのウイルスから周りの人を守るができる。咳やくしゃみをするときには、肘を曲げて口や鼻を覆うか、ティ

- ティッシュで覆う。そして、使用したティッシュはすぐに蓋付きのゴミ箱に捨て、手を洗う。
- 体調が悪いときは家にこもる。発熱、咳、呼吸困難などの症状がある場合は、医療機関を受診し、事前に電話で連絡する。事前に電話をすることで、医療従事者が適切な医療機関を迅速に案内してくれる。これは、あなたを守り、ウイルスやその他の感染症の蔓延を防ぐのにも役立つ。
 - 定期的アルコール系のハンドラブで手をこするか、石鹸と水で手を洗う。石鹸と水で手を洗ったり、アルコール系のハンドラブを使ったりすることで、手についたウイルスを殺すことができる。
 - 咳やくしゃみをしている人と自分の間には、最低でも1メートルの距離を保つ。咳やくしゃみをしている人は、鼻や口から小さな液体の飛沫が吹かれる、これにはウイルスが含まれている可能性がある。咳をしている人がこの病気にかかっている場合は、新型コロナウイルスを含む飛沫を吸い込んでしまう。
 - 住まいの地域の保健当局の指示に従う。国や地方の保健当局は、あなたの地域の状況に関する最新の情報を持っている。彼らは、あなたの地域の人々が自分の身を守るために何をすべきかをアドバイスするのに最適な立場にある。
 - 新型コロナウイルスから自分自身や他の人を守る方法について、あなたの医療提供者、国や地方の保健当局、またはあなたの雇用者から与えられたアドバイスに、常に情報を得て、それに従うようにする。WHOや国の当局からの新型コロナウイルスに関する最新の情報を常に入手する。
 - 高齢者や基礎疾患のある人は、重症化のリスクが高い。こうしたリスクに関する情報を常に得るよう努める。

健康保護情報の伝達方法

信仰指導者は、組織のウェブページ、ニュースレター、電子メール、電話帳、信仰出版物、ラジオ、その他の放送メディアなどの信仰チャンネルを利用することが奨励されています。ソーシャルメディア技術は、宗教指導者・組織・共同体に、いのちを救うメッセージを共有する新しい方法を提供しています。新型コロナウイルスのメッセージは、法話や祈りの中に織り込まれ、コミュニティで共有されることもできます。コミュニティのメンバーが、さまざまなチャンネルやメッセージプラットフォームで、これらのメッセージや最新情報を頻繁に耳にすることが重要になるでしょう。

新型コロナウイルスについて一般の人々とコミュニケーションをとる機関や組織にとって、宗教指導者はその影響力の大きさから、強力な情報源となりえます。指導者は、信頼のおける情報を提供する組織から情報を得て、彼らのメッセージを利用したり、支持したりして、彼らと一緒に参加すべきです（例：WHO、大学、非政府組織）。

9、人権擁護と、スティグマや差別への対処

宗教指導者は、マイノリティ、移民、難民、国内避難民、先住民、刑務所、障がい者、その他の疎外された集団のメンバーを含む弱い立場にある人々への注意を喚起し、それらの人々を取り込むために、特に重要な役割を担っています。自分たちの信仰の伝統の中にある言葉を使うことで、宗教指導者は、すべての人々の尊厳を肯定し、弱者を保護し、ケアする必要性を肯定し、新型コロナウイルスの影響を受けた人々、またはその影響を受けやすい人々の希望と回復力を鼓舞するポジティブなメッセージを推進することができます。実践的な面では、宗教組織が、保健・開発機関と協力して、宗教組織自身が提供するものも含め、脆弱なコミュニティを対象とする情報やサービスへのアクセスを増やすための仕組みを特定することです。さらに、これらの信仰の伝統の多くは、国籍や民族、人種、性別、宗教に関係なく、必要としているすべての人々に奉仕しており、「害を及ぼさない」、「連帯」、「黄金律」といった普遍的な価値観や倫理原則に動機づけられています。

10、結論

新型コロナウイルス感染拡大の間、多様でグローバルな宗教団体および宗教間団体が、彼らの役割と行動を支援するために、ガイダンス、助言ノート、声明を発表してきました。それらの多くが、本ガイダンス文書に貢献しています。その共通認識は、新型コロナウイルスはすべての人種、民族、地理的地域に影響を及ぼす世界的な感染拡大であり、世界的な対応が求められているということです。多数派の信仰と少数派の信仰との両方の信仰間の協力は、非常に重要です。とりわけ、知識、リソース、および実現可能なレベルでのベストプラクティスを共有することが重要です。

添付の「意思決定ツリー」は、新型コロナウイルス感染拡大時の宗教行事の開催に関する意思決定を支援するためのシンプルなフローチャートを提供しています。国や地方自治体が集会の開催を許可している場合、集会の主催者は、リスクに関する情報に基づいた独自の判断を行い、それに基づいて適切な計画を立てることができます。

WHOは、この暫定ガイダンスに影響を及ぼす可能性のある変化について、引き続き状況を注意深く監視しています。何らかの要因が変化した場合には、WHOは更なるアップデートを発行します。そうでない場合は、この暫定ガイダンス文書は発行日から2年後に失効します。